

201120042A

厚生労働科学研究費補助金

循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

未成年者の喫煙・飲酒状況に関する
実態調査研究

平成23年度 総括研究報告書

研究代表者 大井田 隆

日本大学医学部社会医学系公衆衛生学分野

平成24（2012）年 3月

目 次

未成年の喫煙・飲酒状況に関する実態調査研究	1
日本の中学生・高校生における過敏性腸症候群 —2010年度全国調査を通じて—	100
Mobile phone use does not discourage adolescent smoking in japan	120
Association of Parental Factors with Student Smoking and Alcohol Use in Japan	126
日本の若者の睡眠環境と睡眠習慣に関する疫学研究	135
日本の若年層における寝ぼけと歯ぎしりについての疫学的研究	139

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
H22-循環器等（生習）-指定-020
研究年度終了報告書

未成年の喫煙・飲酒状況に関する実態調査研究

研究代表者 大井田隆（日本大学医学部社会医学系公衆衛生学分野 教授）

研究要旨

わが国の中高生の喫煙の実態と関連要因を明らかにし、対策の評価と推進方策を検討する。健康日本 21 の最終評価の評価指標を提出する。

分担研究者

簗輪眞澄 群馬パース大学非常勤講師
鈴木健二 鈴木メンタルクリニック院長
樋口進 独立行政法人国立病院機構久里浜アルコール症センター副院長
兼板佳孝 日本大学・医学部、公衆衛生分野准教授
神田秀幸 福島県立医科大学・衛生学講師
尾崎米厚 鳥取大学医学部・環境予防医学分野准教授

A. 研究目的

わが国の中高生の喫煙及び飲酒行動の実態と関連要因を明らかにし、対策の評価と推進方策を検討する。健康日本 21 の最終評価の評価指標を提出する。そのために、喫煙及び飲酒行動に関連する環境要因調査、喫煙及び飲酒を取り巻く新たな問題の調査を実施する。

本研究の目的は、わが国の中高生の喫煙及び飲酒実態とその動向を明らかにし、変動に影響を及ぼす要因の関連を検討し、わが国の喫煙、飲酒対策の推進方策を検討することである。欧米諸国では、未成年の喫煙および飲酒を重要な健康問題であると位置づけ、国を挙げて定期的に未成年者の飲酒および喫煙行動についてモニタリングしており、これらの成果が未成年者の喫煙および飲酒防止対策に生かされるとともに政策の効果

評価にも利用されている。わが国では、全国を代表するような調査対象の抽出方法を用いた調査はいままでに 4 度

（1996, 2000, 2004, 2008 年）に実施されており、同様のサンプリングフレームワーク、調査方法にて実施した全国調査で動向を明らかにする必要がある。従来の調査を実施してきた本研究グループが継続調査を実施することが望ましい。また、一部の項目については、1990 年代終わりより WHO や CDC が共同で進められている発展途上国も含めた世界各国での青少年の喫煙行動調査 (Global Youth Tobacco Survey) に対応させわが国の特徴を明確にすることができる。さらに、健康日本 21 および健やか親子 21 の最終評価のための情報を得るためにもこの調査を実施することは時宜を得たものであり、その成果を用いて、わが

国の現状と問題点及び解決方法を整理でき、喫煙及び飲酒対策の改善、推進のための方策を提言できる。

B. 研究方法

(1) 2010年調査

全国学校総覧を用いて全国の中学校より134校、高等学校より110校を無作為抽出し、対象校に調査票を送付した。調査回答校の在校生徒全員を対象とした調査で、学校の在籍人数に比例して抽出確率を決める抽出方法であるため、この抽出方法は、1段クラスター確率比例抽出である。

調査実施場所は教室内で、調査方法は、調査票による自記式無記名調査である。各学校の担任教師より調査票を配布して記入後、各生徒が糊付封筒に調査票を入れて、教師が学校分をまとめて、返送してもらった。調査内容は、喫煙・飲酒行動、ニコチン依存度、喫煙・飲酒行動の要因などであった(別紙)。2010年調査は9月に対象校の抽出し、10月初旬、調査の依頼、調査票送付をした。対象中学校の134校のうち調査に12月末までに回答し、1月20日まで入力した学校13校、高校110校のうち、回答した13校で、13,477名の回答があった。これらの回答が2011年6月に最終的に集計できる予定で報告書において報告する。詳細な方法については2009年の報告書に記載されている。

倫理面への配慮では、調査対象者が質問票に記入するときは担任の教師がのぞき込まないようにしたこと、誰がどの質問票を書いたのか不明であるようにしたことにより倫理上の問題はないと判断した。

C. 調査経過

2010年調査は9月に対象校の抽出し、10月初旬、調査の依頼、調査票送付をした。2011年1月に調査終了していない学校に対しては再度電話による依頼を実施した。

D. 考察・結語

調査票と調査結果は別添の通り。2011年2月9日現在で解析できる2010年調査では喫煙頻度では喫煙経験のある中学生男子;10.9%、高校生男子;20.6%、中学生女子;7.7%、高校生女子;12.6%で、現在の喫煙状況は中学生男子で「30日間で1日でも喫煙」;3.2%、毎日喫煙;0.8%、高校生男子で、「30日間で1日でも喫煙」;7.4%、毎日喫煙;3.4%、中学生女子で「30日間で1日でも喫煙」;1.8%、毎日喫煙;0.8%、高校生女子で「30日間で1日でも喫煙」;3.8%、毎日喫煙;0.6%、であった。経年的に観察して(1996年、2000年、2004年、2008年)喫煙率は概ね減少していると考えられた。

飲酒頻度では飲酒経験のある中学生男子;24.2%、高校生男子;36.6%、中学生女子;24.1%、高校生女子;33.3%で、現在の飲酒状況は中学生男子で「30日間で1日でも飲酒」;11.5%、毎日飲酒;0.4%、高校生男子で、「30日間で1日でも飲酒」;20.2%、毎日飲酒;0.7%、中学生女子で「30日間で1日でも飲酒」;11.0%、毎日飲酒;0.1%、高校生女子で「30日間で1日でも飲酒」;18.0%、毎日飲酒;0.5%、であった。経年的に観察して(1996年、2000年、2004年、2008年)飲酒率は概ね減少していると考えられた。

F. 健康危機管理情報なし

G. 発表研究

大井田隆

○大井田隆、尾崎米厚、兼板佳孝. わが国における妊婦の喫煙状況. 日本公衆衛生雑誌 2007; 54; 115-22.

○Ohida T, Kaneita Y, Osaki Y, Takemura S, Harano S, Kanda H, Hayashi K, Uchiyama M. Is passive smoking associated with sleep disturbance among pregnant women?, Sleep 2007, 30;1155-61.
Kaneita Y, Ohida T, Osaki Y, Tanihata T, Minowa M, Suzuki K, Wada K, Kanda H, Hayashi K.: Insomnia among Japanese Adolescents: A Nationwide Representative Survey, Sleep 2006, 29; 1543-60.

尾崎米厚

○ Osaki Y, Taniguchi SI, Tahara A, Okamoto M, Kishimoto T. Metabolic syndrome and incidence of liver and breast cancers in Japan. Cancer Epidemiol. 2011 Sep 2. [Epub ahead of print]

Ohkura T, Taniguchi S, Osaki Y, Yamamoto N, Sumi K, Fujioka Y, Matsuzawa K, Izawa S, Shiochi H, Kinoshita H, Inoue K, Takechi M, Kishimoto T, Shigemasa C. Lower fasting plasma glucose criteria and high triglycerides are effective for screening diabetes mellitus in the rural Japanese population: the Tottori-Kofu Study. Rural Remote Health. 2011;11(3):1697.

Munezawa T, Kaneita Y, Osaki Y, Kanda H, Minowa M, Suzuki K, Higuchi S, Mori J, Yamamoto R, Ohida T. The association between use of mobile phones after lights out and sleep disturbances among Japanese

adolescents: a nationwide cross-sectional survey. Sleep. 2011;34(8):1013-20.

○Osaki Y, Suzuki K, Wada K, Hitsumoto S. Association of parental factors with student smoking and alcohol use in Japan. Nihon Arukoru Yakubutsu Igakkai Zasshi. 2011 ;46(2):270-8.

○Osaki Y, Tanihata T, Ohida T, et al. Decrease in the prevalence of smoking among Japanese adolescents and its possible causes: periodic nationwide cross-sectional surveys. Environ Health Pre Med 2008, 13:219-26.

○Osaki Y, Tanihata T, Ohida T, et al. Decrease in the prevalence of adolescent alcohol use and its possible causes in Japan: periodical nationwide cross-sectional surveys. Alcohol Clin Exp Res. 2009 ;33:247-54.

○Osaki Y, Tanihata T, Ohida T, et al. Adolescent smoking behavior and related factors in Japan: Data from periodical nationwide surveys. Adolescent Health: Focused on smoking. The 39th Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health. Nov 22-25, 2007, Sakado, Saitama.

○Osaki Y, Higuchi S, Tanihata T, Ohida T, et al: Adolescent alcohol use in Japan, 1996, 2000 and 2004. Symposium 65: Underage drinking: epidemiology and preventive intervention in South-East Asia, the USA and Europe. The International Society for Biomedical Research on Alcoholism (ISBRA) 2006 World Congress on Alcohol

- Research・シンポジウム・2006・Sydney.
- Osaki Y, Higuchi S, Ohida T, et al. Decrease in drinking prevalence among Japanese adolescents and its related factors: data from nationwide surveys in 1996, 2000 and 2004. The 1st International Alcohol Conference・国際会議の招待講演・2006・Seoul.
- Osaki Y, Higuchi S, Tanihata T, Ohida T, et al. Alcohol and youth in Japan: Decrease in drinking prevalence among Japanese adolescents and its possible causes. The 6th Korean Society of Alcohol Science Fall Meeting・韓国国内研究会の招待講演・2006・Seoul.
- Osaki Y, Tanihata T, Ohida T, Minowa M, Wada K, Suzuki K, Kaetsu A, Okamoto M, Kishimoto K. Adolescent smoking behaviour and cigarette brand preference in Japan. Tobacco Control 2006; 15: 172-180.
- Higuchi S, Matsushita S, Osaki Y. Drinking practices, alcohol policy and prevention programmes in Japan. International Journal of Drug Policy 2006;17:358-366.
- 箕輪眞澄、○尾崎米厚. 若年における喫煙開始がもたらす悪影響. 保健医療科学 2006;54(4):262-277.
- 尾崎米厚. 青少年の喫煙行動、関連要因、および対策. 保健医療科学 2006;54(4):284-289.
- 尾崎米厚. 2004年中高生の飲酒及び喫煙行動に関する全国調査結果の速報なぜ、中高生の飲酒率が下がったか? 尾崎米厚. PREVENTION 2006;161:2-3.
- 尾崎米厚. アルコール教育. クリニカルプラクティス 2006;25(3):211-214.
- 尾崎米厚. 中高生の飲酒行動に関する最新の動向. 尾崎米厚. 中央調査社報 2006;580:1-4.
- 尾崎米厚. 飲酒行動の性差. 性差と医療 2006;3(8):821-827.
- 尾崎米厚. わが国でも国際比較のデータが必要. 世界の医学誌から 解説. MMJ 2006;2(8):695.
- Osaki Y. A report on perception of smoking prevention for children among schoolteachers in one Japanese rural community. Aust J Rural Health 2005;13(1):51-2.
- 尾崎米厚, 松下幸生、白坂知信、廣尚典、樋口進. わが国の成人飲酒行動およびアルコール症に関する全国調査. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2005;40(5):455-470.
- 尾崎米厚. タバコと世論. 中央調査報 2005;573:1-5.
- 尾崎米厚, 神田秀幸. 未成年者の喫煙、青少年の健康リスク p 45-57、自由企画・出版、2008年
- 尾崎米厚, 箕輪眞澄、大井田隆、鈴木健二、谷畑健生、神田秀幸、兼板佳孝、林謙治. わが国の成人の分煙に関する知識、受動喫煙曝露の実態に関する全国調査. 日本禁煙医師連盟通信 2008;17(1):7-8
- 尾崎米厚. たばこ対策研究の現状と今後の研究課題. 公衆衛生 2008; 72(7):522-526.
- Osaki Y, Tanihata T, Ohida T, Kanda H, Kaneita Y, Minowa M, Suzuki K, Wada K, Hayashi K. Decrease in the prevalence of smoking among Japanese adolescents and its possible causes; Periodic nationwide cross-sectional surveys. Environ Health Prev Med 2008;13:219-226.

- Osaki Y, Trends in adolescent alcohol use and related factors in Japan. Symposium: Approaches and policies that may reduce alcohol consumption and related harm: Experience from the Asia-Pacific region. Research Society on Alcoholism & International Society for Biomedical Research on Alcoholism Joint Scientific Meeting. July 2, 2008, Washington D.C, USA. Osaki Y, Higuchi S, Ohida T, Kanda H, Kaneita Y, Suzuki K, Tanihata T, Hayashi K. Trends in alcohol use and related problems among Japanese adolescents. Symposium; Alcohol consumption and related harm in the East Asian Region. 13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting, Oct 31, 2008, Tokyo, Japan.
- Osaki Y, Kishimoto T, Tanihata T, Hayashi K, Ohida T, Kaneita Y, Kanda H, Minowa M, Suzuki K. Trends in association between alcohol use and cigarette smoking in Japanese adolescents: Results from periodical nationwide cross-sectional surveys. 136th Annual meeting and exposition of American Public Health Association, Oct 25-29, 2008, San Diego, USA
- 尾崎米厚、大井田隆、兼板佳孝、神田秀幸、鈴木健二、簗輪眞澄、谷畑健生、林謙治. 薬物使用の疫学調査. サテライト公開講座: 未成年者に対する喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の現状と課題. 第30回日本アルコール関連問題学会、2008年6月21日、広島市.
- 神田秀幸、早川岳人、坪井聡、尾崎米厚、福島哲仁. Cochrane Database of Systematic Reviews における未成年者喫煙対策の動向. 第67回日本公衆衛生学会総会抄録集. 日本公衆衛生雑誌 2008;55(10 suppl):255.
- 尾崎米厚、神田秀幸、大井田隆、兼板佳孝、簗輪眞澄. わが国の中高生の喫煙防止のためには、タバコ価格はいくらがいいのか? 第67回日本公衆衛生学会総会抄録集. 日本公衆衛生雑誌 2008;55(10 suppl):297.
- 尾崎米厚、松下幸生、樋口進. 【職域におけるアルコール問題再考】アルコール問題の疫学 労働者、職場を中心に. 産業精神保健 2011;19(2):75-79.
- 安藤圭, 岸本拓治, 尾崎米厚, 田原文. 動脈硬化症予防プログラムにおける環境・遺伝要因の介入効果およびリバウンドへの影響に関する研究. 米子医学雑誌 2011; 62(3-4): 128-137.
- 尾崎米厚. アルコールによる疾病負荷量(酒害の健康被害の大きさを表す数量指標). 日本アルコール関連問題学会雑誌特別号 2011;S5.
- 尾崎米厚. 【飲酒運転対策プロジェクト】わが国の飲酒運転の現状. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2011; 46(1): 23-28
- 鈴木健二
- 鈴木健二、尾崎米厚、簗輪眞澄、和田清、大井田隆、土井由利子、谷畑健生. 未成年者飲酒問題全国調査結果: 1996年と2000年調査の比較. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2003;38(5):425-433.
- 鈴木健二、尾崎米厚、簗輪眞澄、大井田隆、兼板佳孝. 3回の全国調査における中高生の飲酒の減少傾向. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2007; 42: 129-51.
- 神田秀幸
- 神田秀幸、尾崎米厚、谷畑健生. 未成年者を対象とした喫煙対策の世界的動向 -Cochrane Database of Systematic Reviews における文献考察-. 保健医療科学 2006;54(4):278-283.
- Kanda Y, Osaki Y, Ohida T, Kaneita Y, Minowa M, Suzuki K, et al, School policy against smoking and high

school student's smoking behavior: A
national multi-level study in Japan;
American Public Health Association

136th Annual Meeting and
Exposition , 2008 San Diego.
H. 知的財産権の出願・登録状況
なし

平成22年度厚生労働科学研究費補助金
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業

未成年の喫煙・飲酒状況に 関する実態調査研究

H22-循環器等(生習)一指定

研究代表者 大井田隆(日本大学・医・公衆衛生)
研究分担者 簗輪真澄、鈴木健二、樋口進、
兼板佳孝、神田秀幸、尾崎米厚
研究協力者 池田真紀

研究班のミッション

- わが国の中高生の喫煙及び飲酒行動の実態と関連要因を明らかにし、対策の評価と推進方策を検討する。健康日本21の最終評価の評価指標を提出する。
- 2010年度全国調査(4年に1度継続実施中の中高生の喫煙及び飲酒行動調査、2008年より2年に1度)
- 喫煙及び飲酒行動に関連する環境要因調査
- 喫煙及び飲酒を取り巻く新たな問題の調査

2010年度調査の方法

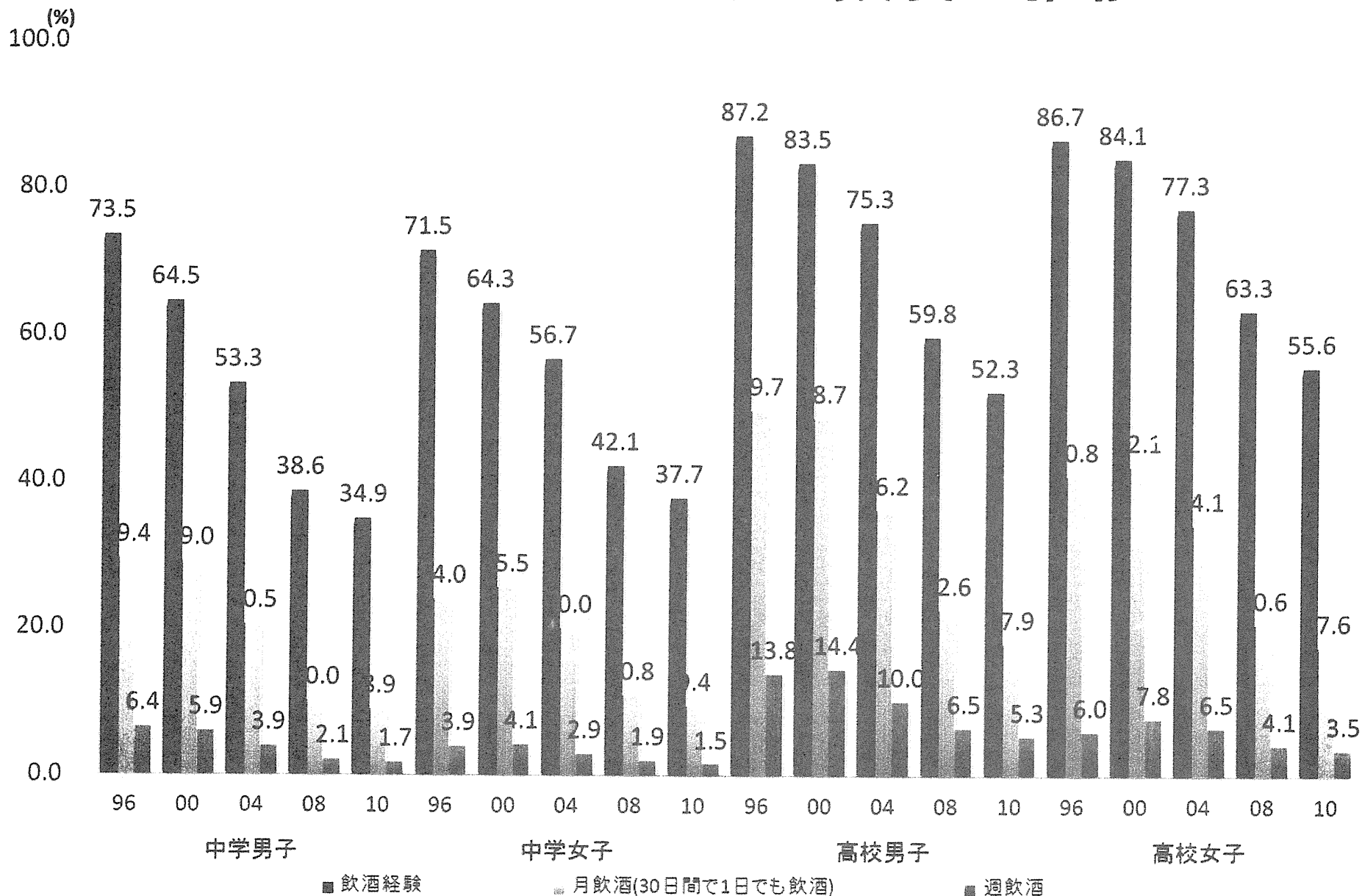
未成年飲酒喫煙調査

- 全国に中学校約1万校、高等学校約5千校から無作為に中学校131校、高等学校113校抽し、学校長宛に無記名の調査票と密封封筒を送付した。
- 担任の教師が生徒に調査票と封筒を配布し、教室内で記入させた。
- 学校より日本大学に調査票入り封筒をまとめて送付した。
- 従来4回の調査(96,00,04,08)では対象者数約14万人、回収数約10万人

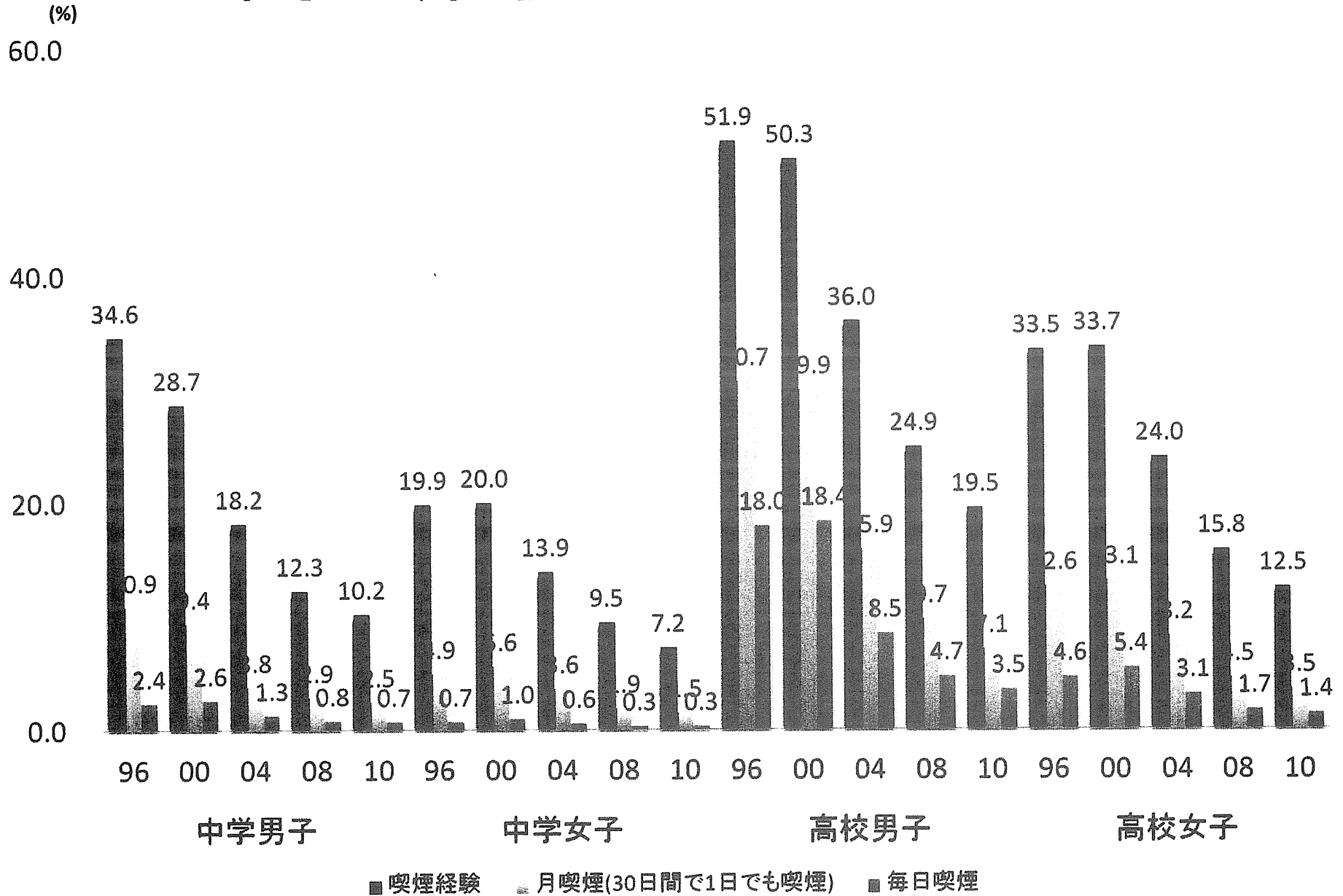
全国調査の概要(喫煙、飲酒行動)

年度		全学校数	抽出数	回答数	協力率(%)	回答生徒数
1996	中学	11,194	122	80	66	42,798
	高校	5,330	109	73	67	73,016
2000	中学	11,153	132	99	75	47,246
	高校	5,315	102	77	76	59,051
2004	中学	11,060	131	92	70	39,385
	高校	5,193	109	87	80	63,066
2008	中学	10,882	130	92	71	40,151
	高校	5,115	110	80	73	55,529
2010	中学	10,785	131	89	68	38,552
	高校	4,991	113	81	72	60,315

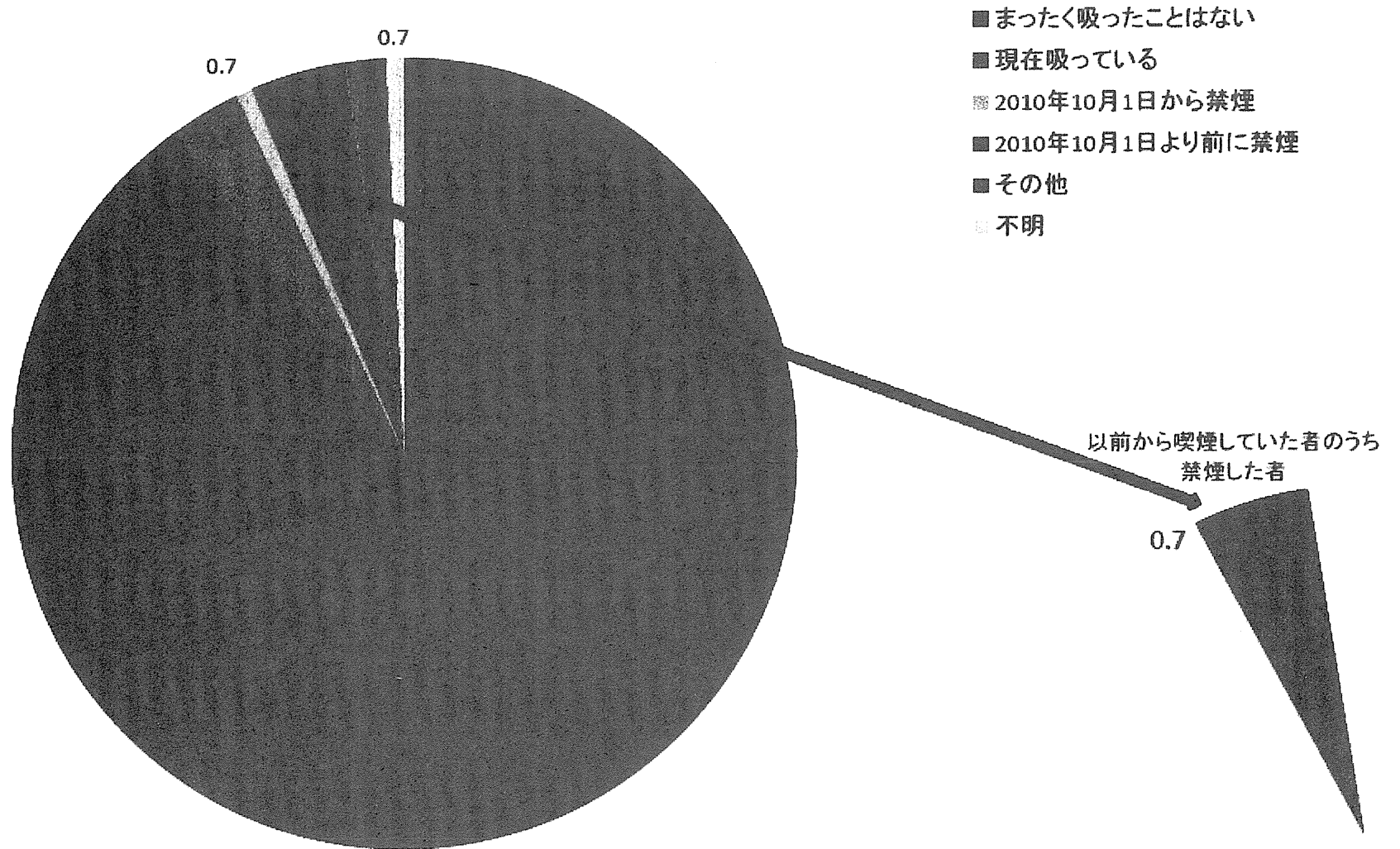
中学生、高校生の飲酒頻度の推移



中学生、高校生の喫煙頻度の推移

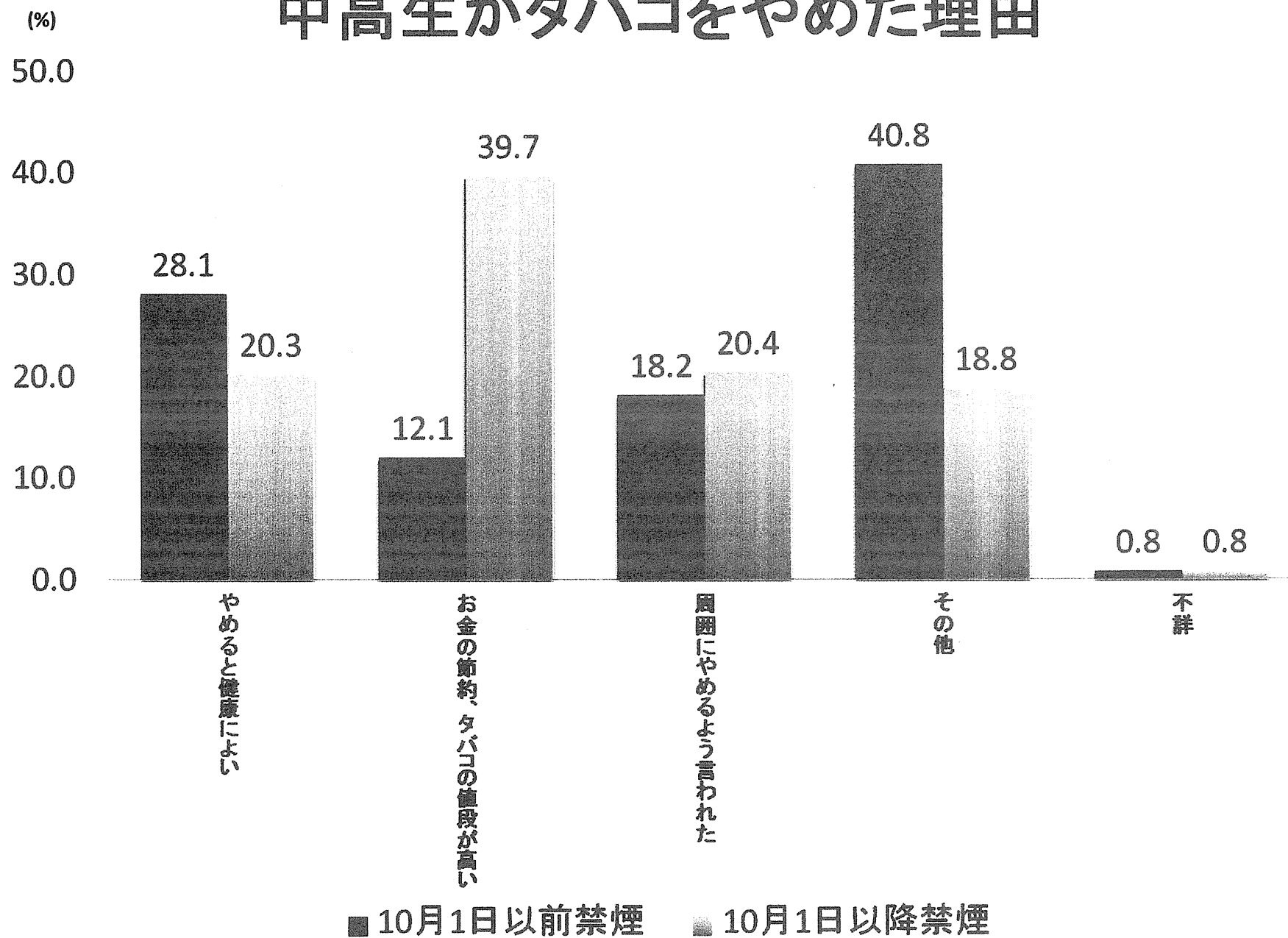


中高生の喫煙状況

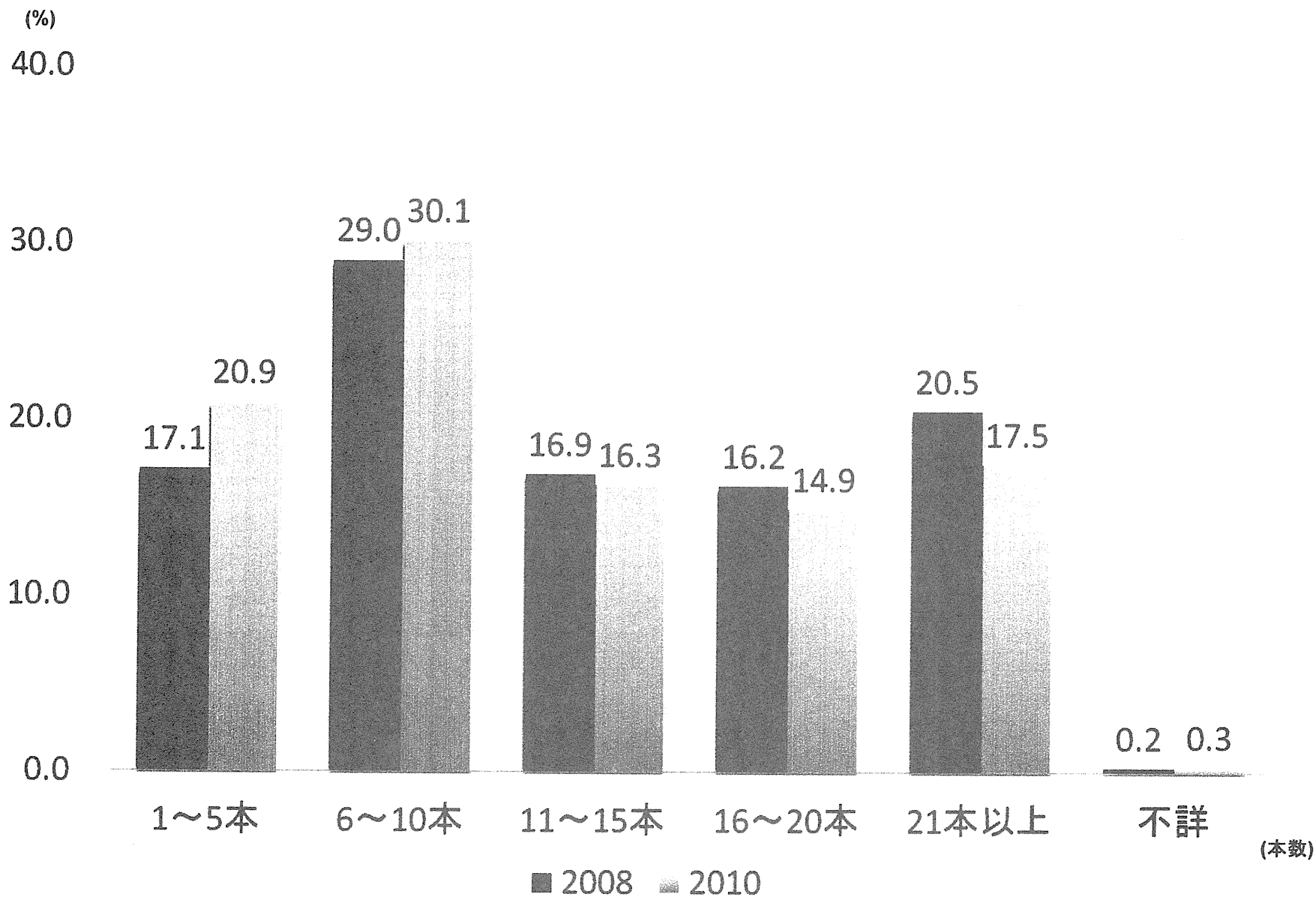


中高生の喫煙状況, %

中高生がタバコをやめた理由

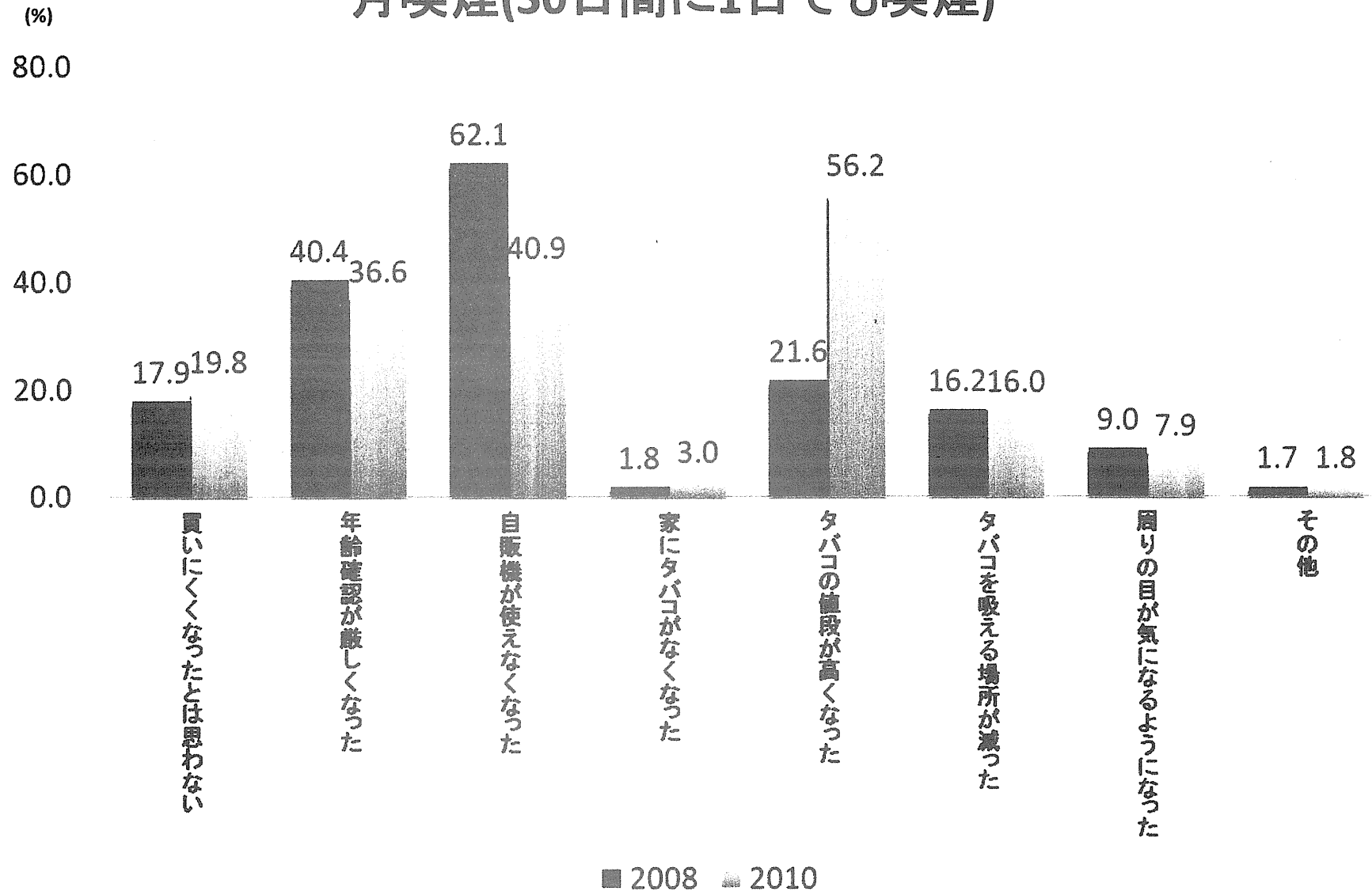


毎日喫煙者の1日平均喫煙本数



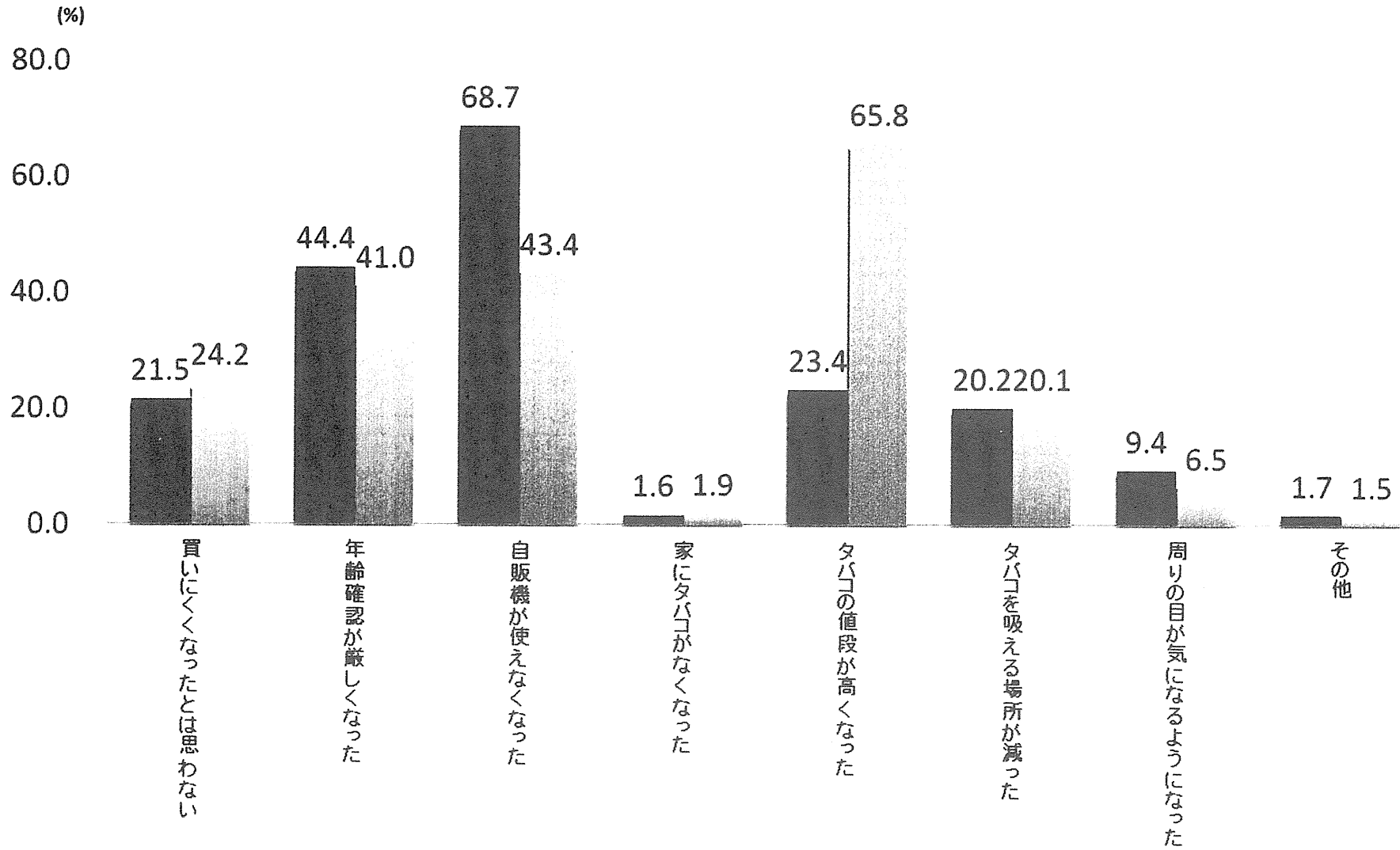
タバコが買いにくくなった理由

月喫煙(30日間に1日でも喫煙)



タバコが買いにくくなった理由

毎日喫煙



■ 2008

タスポを使ったタバコの入手 月喫煙(30日間に1日でも喫煙)

